

高性能搅拌機

サタケの搅拌機

幅広い分野の産業で
使用されています。

安心と信頼の搅拌技術

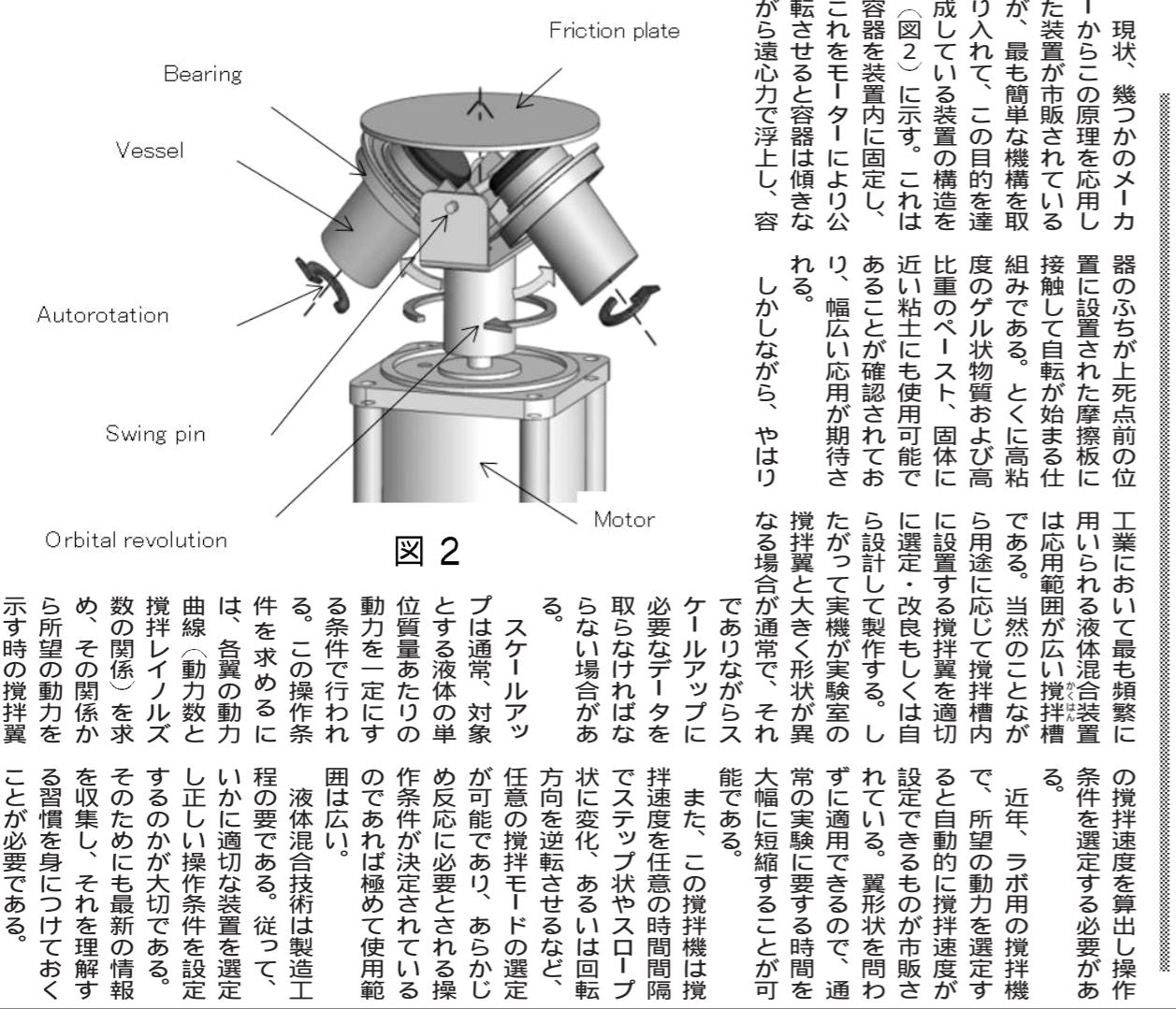
サタケは、90年余りいつの日も研究・開発に休むことなく力を注ぎ、次々と新しい技術にチャレンジし、ユーザーの満足と信頼、生産現場へのバックアップを通して社会に貢献してきました。グローバルな規模で市場の多様化が進む中、経済成長と環境保護の高度なバランスが求められるこの時代、搅拌でその期待に応えていきます。サタケの安心と信頼を込めた信頼ある製品群、ラボ用搅拌機から大型搅拌機まで高品質の追求と豊富なバリエーションで多様化する搅拌ニーズにお応えします。



新開発 フローティングマグミキサー	新発売 ポータブルミキサー A720-0.2BX	新発売 EGミキサー
完全自己浮遊型・洗浄性良好 マグネット式シールレス搅拌機	インバーター型 回転速度可変・省スペース	簡単操作・新開発クランプ採用 搅拌機取付自由度高

SATAKE 佐竹化学機械工業株式会社
SATAKE CHEMICAL EQUIPMENT MFG. LTD.
www.satake.co.jp

混合・混練・搅拌機



モノづくり支える盤技術

工業において最も頻繁に用いられる液体混合装置は、応用範囲が広い搅拌槽である。当然のことながら搅拌翼を適切に設置して搅拌槽内に取り込まれやすく、いつん取り込まれると除去し難い。従来の脱泡

装置において大きな課題となっている。よく液体が複雑なレオロジー特性を示す場合には、気泡は

は気泡が分散した液体を容器内に仕込み、これに

により脱泡

が可能である。しかししながら、近年では、

操作としては、真空操作や遠心分離が用いられてきた。しかしながら、近年では、

示す時の搅拌翼の形状や、その関係から、所望の動力を求める。この操作条件を求めるに、各翼の動力を一定にする。スケールアップによる粘度を、必要ならデータを取らなければならぬ場合がある。この搅拌機は搅拌翼と大きさが異なる場合が通常で、それでありながらスケールアップに必要な粘度を、必要ならデータを取らなければならぬ場合がある。この搅拌機は搅拌翼と大きさが異なる場合が通常で、それ

技人が出合い、挑戦(試作)が始まる... 第5回 試作市場2014

～試作に焦点を絞った専門展～

会期 2014年 5月29日(木)・30日(金) 会場 大田区産業プラザP10 (東京都大田区南蒲田1-20-20)

Micro Manufacturing Technology Show
微細精密加工技術展 2014 in 東京
～微細加工・精密加工に焦点を絞った専門展～

求む! 出展社

詳細は <http://www.nikkan-event.jp/sb>

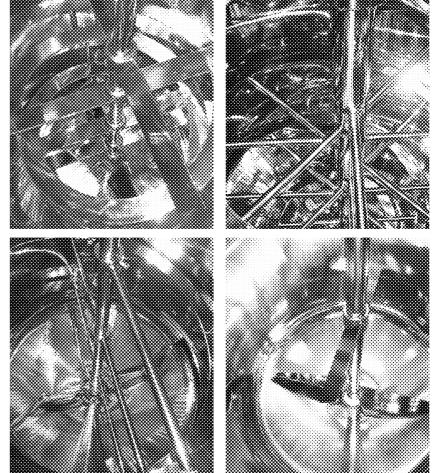
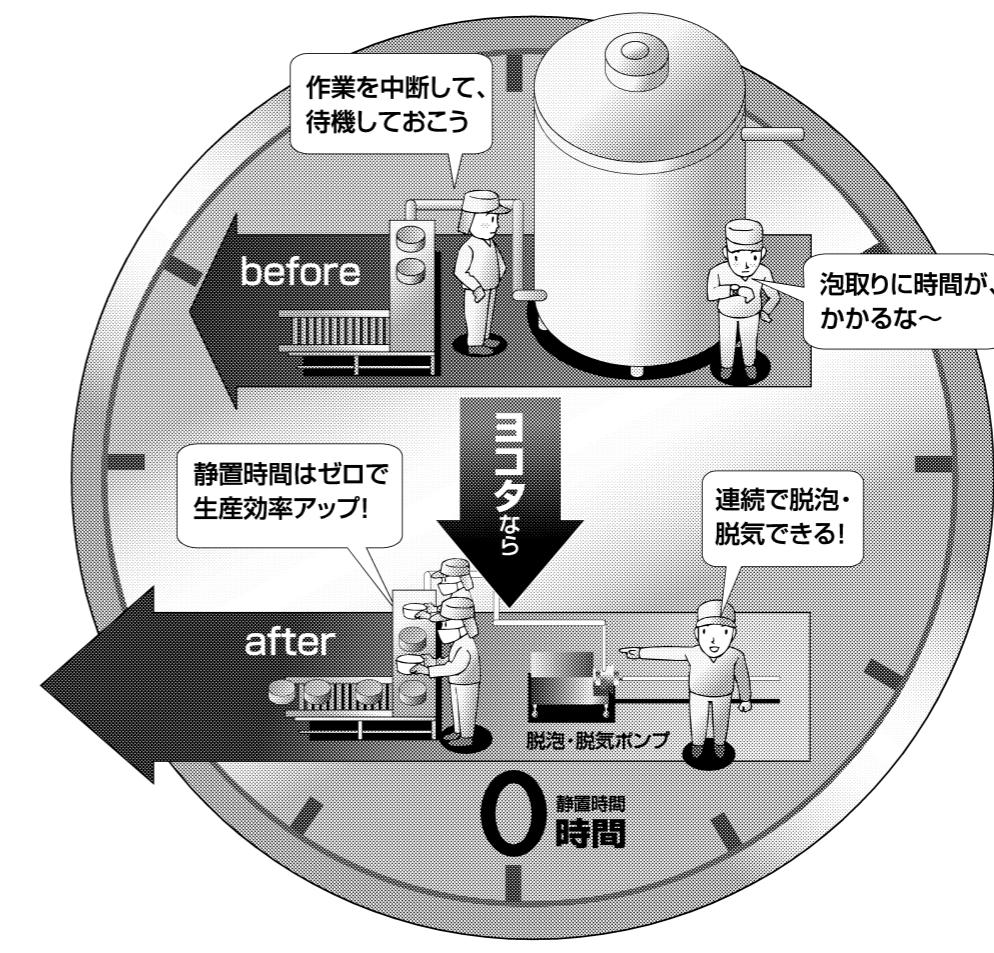
後援: 経済産業省[予定] 協賛:(公財)大田区産業振興協会 主催: 日刊工業新聞社

問合せ先 日刊工業新聞社 大阪支社 イベント事務局 TEL 06-6946-3384

瞬時に脱泡・脱気!

静置時間

ヨコタの脱泡・脱気ポンプがあれば、これまでの静置用タンクは不要です。



高効率搅拌翼

◎あらゆる粘度に対応。 ◎消費電力の低減が可能。

◎均一混合が可能。 ◎翼の清掃性に優れる。

◎混合時間の短縮が可能。 ◎反応、蒸留、固体攪拌、晶析、ガス吸収etc.

厚生労働省 第一種圧力容器製造許可工場

OHOKOGYO 〒430-0911 静岡県浜松市中区新津町443番地

TEL (053)461-2736 FAX (053)465-2210

お問い合わせは、専務の山田まで

E-mail:ohokogyo@jade.dti.ne.jp

<http://www.ohokogyo.com>

液体混合は化学、食品、製薬などのプロセス工業で一般的に用いられており、その目的は単なる濃度の均一化はもちろんのこと、化学反応や物質移動の促進、液体中への気体・液体・固体の分散、伝熱などさまざままで、用いられる装置も多種多様に成らざるを得ない。また近年は、特に複数の原材を配合・調合し、素材に新たな機能を付与するための革新的な技術が要求されている。時代の要請を反映し、国際会議での研究発表や学術誌における論文にも特殊な目的や、それに対応する特殊型搅拌機に関するものが多くなってきており、本稿ではその全てを網羅することは難しいが、近年、注目を集めている新しい機能を有する装置とその操作について幾つか紹介させて頂く。

液体混合機に関するものが多くなってきており、本稿ではその全てを網羅することは難しいが、近年、注目を集めている新しい機能を有する装置とその操作について幾つか紹介させて頂く。

液体混合機として、研究事例が多いのは明らかにスマートミキサーである。今までに多くのエレ

ーメントが開発され、層流や乱流ばかりではなく、異相系に用いられるものも開発されている。これ

で間欠的に注入する場合に生じる時間周期的な流れ方向への濃度ムラの問題を(図1)に示す。

イシクミキサーが提案されている。これは対応すべく近

年では、時間差で、イシクミキサーが提案さ

れている。原理を(図1)に示す。

イシクミキサーが提案さ

れている。原理を(図1)に示す。